

内容別・観点別の分析

(様式2)

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	技術分野においては、図面の引き方や工具の使い方を学ぶことができた。 家庭分野では、家庭生活や食事に関しては、座学を重点的に置くことで、より深い学びを行うことができた。	課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 意欲の高さとは逆に技能面で厳しい生徒が何名かいた。 製図など正確性を求められる内容は苦手な生徒が多い。	両教科共に今後は実習形式が増すため、全体指導よりは個の支援に重点を置いた授業体系に切り替えていく。 木材加工実習や被服実習など危険が予想されやすいため、安全指導に重点を置いていく。
2年	技術分野では、生物育成の知識と金属加工の実習を学ぶことができた。 家庭分野では、座学で学んだうえで、実習を効果的に効率よく行うことができた。	工夫し、積極的に課題に取り組む生徒が多く基本的な技術を取得させることができた。 知識・理解に関しては肥料など暗記することに苦手意識を持っている生徒が多い。	両教科共に実習形式になっているため作業の効率化を目指して指導を進めていく。 実習の中で、工夫や知識を復習しながら作業を行っていくようにしていく。
3年	技術分野では、エネルギー変換に関してに学び、実習時も工具の扱いなどを学ぶことができた。 家庭分野では、プリントを使用し効果的に学習することができた。	関心を持って取り組むことができているおり、技能に関して適切に工具を工夫し使用できている。 知識・理解に関してはできている生徒とまったくできていない生徒との差が大きい。	作業を進めていくうえで、主体的に、そして、効果的に行っていけるような支援に重点を置く。また、実生活に役立つ事例を挙げて、自分の実際の生活へフィードバックができるような指導を行っていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	・課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・意欲の高さとは逆に技能面で課題のある生徒が何名かいた。 ・知識理解については、定着の差が大きい。	・使用目的に応じて自分でデザインを行う。さらに作業の効率を高める工夫をさせる。 ・知識・理解の達成率を高めるために、授業のなかでの説明だけでなく、振り返りの時間をとり生徒自身で確認をしていく。	・配布資料や教室の掲示物の充実をはかり、作業を効率的に進めていけることができるようにしていく。 ・作業の振り返りを増やすことで、工夫や、知識理解を深めていく。
2年	・課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・技能面では昨年度よりも改善されてきている生徒が多い。 ・知識理解については、まだ定着の差が大きい。	・使用目的に応じて自分でデザインを行う。さらに作業の効率を高める工夫をさせる。 ・知識・理解の達成率を高めるために、振り返りの時間を重視し、より生徒自身で確認をしていく。	・作業を効率的に進めていけるように、自分なりの計画をたてることができるようにPDCAの力をつけていく ・作業の振り返りを増やすことで、工夫や、知識理解を深めていく。
3年	・課題への関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・技能では早さと正確性を両立できるようになっている。 ・知識理解については、おおむね理解できていると考えられるが細部に課題が残る。	・生徒の様子を観察しながら、作業毎の目標を決めて作品作りを進めていく。 ・教材についている図面にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。	・作業が早く進んだ生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めるようにする。 ・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。